

<活動の概要>

2019 年度は、産業文化研究センター (RCIC) として、これまでの教育事業を土台とした新たな教育事業に着手し、RCIC や本学の様々な教育事業の実践成果をまとめ、本学紀要にて報告を行った。本学における共同研究のスキームについて、他大学の実態把握をもとに見直し、改善案を大学へ要望した。来年度の共同研究として3つの案件を締結へと繋げた。また、ソフトピア地区のコミュニティの活性を目的としたデザインの提案および実施において SJ 指定管理者への協力を行った。

個人研究に関しては、科研調査や個人研究の調査を実施、その成果の一部は国内外の学会にて発表し、また、複数の学術誌にて論文が掲載された。

学内プロジェクト研究に関しては、代表を務める「根尾コ・クリエイション」の5年間の総括として、IAMAS2020 で展示を行ない、活動をまとめた冊子を制作し配布した。

---

<学内での活動>

**1 産業文化研究センター (RCIC)**

2019 年度の業務では、まず教育事業の取組みの充実が挙げられる。今年3年目となる「イアマスこどもだいがく」は、これまでの経験をもとに4つの充実したワークショップを実施することができた。これらの経験をもとに、大垣市情報工房にて、新たに「アイ手—プロジェクト」として二つのワークショップを企画・実施した。

RCIC の教育事業のほか、根尾小学校でのワークショップ (根尾コ・クリエイション)、あいちワークショップギャザリング、愛知県児童総合センターあそびの実験室などにおいて、本学の教員・学生が様々なワークショップを展開しており、本学における子ども向けワークショップの実践と成果をまとめ、情報科学芸術大学院大学紀要第 11 巻にて「特集イアマスの子ども向けワークショップ—その実践と成果」(pp.111-136) として報告した。また、2019 年度連携報告書の巻頭特集でも、子ども向けワークショップとして取り上げた。大人向けの教育事業に関しては、本年も岐阜県職員研修の講座「行政アイデアスケッチ」を実施した。本年は、昨年好評であったことから2回講座を行った。

産学官連携については、共同研究として、昨年からの継続案件として、(株)大広との共同研究「広告クリエイターによるものづくりプロトタイピング」を年間通して実施、完了した。また、その他の連携事業として、ぎふクラフトフェアにおけるものづくりワークショップへの協力、SJ 指定管理者のソフトピア地区のコミュニティ活性のためのデザインへの提案と協力など行った。これらの共同研究など本学の連携事業に関しては、例年通り 2019 連携報告

書にまとめ発行した。

イアマス共同研究のスキーム（共同研究と受託研究）について、社会的需要や実態を鑑みて再検討が必要であると判断し、全国の国公立大学で実施されているスキームの調査を行なった。これをもとに、現在の需要や将来を見据えた新たなスキームが実施できるよう、県へ改善案を提案した。

多様な科学技術研究を学ぶことと県内の研究機関の研究者とのネットワーク構築を目的として、昨年3月にテクテクテク勉強会を立ち上げた。2019年には3回勉強会を開催した。2020年度も継続していく予定。

また、県内のイノベティブな企業や起業家などとのゆるいネットワーク構築を目的としたラジオ番組「イアマス波（ウェイブ）」を企画しスタートさせた。番組は2019年4月から9月まで、毎回ゲストを迎えたトークを中心とした内容であり、月一回の番組として岐阜放送（ぎふチャン）にて放送、最終的には再放送を含め12回放送された。2017年より始めた「イアマスOBOG interview」は、サイトアクセス数も高く今年度も継続した。

## 2 研究プロジェクト

今年度は代表として根尾コ・クリエイションを実施した。最終年度となる2019年は、根尾の水源システムのフィールドワークと、文化財としての根尾の盆踊りや能郷の能狂言の調査や記録に力を入れた。根尾の盆踊りに関しては、テクノロジーによるアーカイブ構築など新たな取り組みにも着手した。学生メンバーは、それぞれ木炭描画、物語の記憶、食の記録など、地元の人たちとの協働しながら制作に取り組んだ。昨年より実施している「根尾あんばようしよまいか」でも、根尾の文化を学ぶトークイベントを3回に亘り実施した。これらの活動に関して、新たな視点のもと成果をまとめ、冊子「根と茎と菌—根尾の共生ネットワーク」（48頁）として制作した。冊子のコンセプトと合わせた展示をIAMAS2020にて行ない、冊子も配布した。冊子に関しては、根尾関係者から高く評価されている。プロジェクトの成果の一部は、地域活性学会でも発表した。

---

<個人研究や学外での活動>

## 3 コミュニティラジオの調査と成果の公開

本年が最終年度となる「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」（科研基盤C代表者）では、これまでに大きな自然災害に見舞われた熊本、八代、岡山、広島、長岡、十日町において合計8局のコミュニティラジオ局の訪問調査を実施した。また、震災より8年目を迎えた東北のコミュニティラジオ局で被災直後から放送している3つの震災番組

の全データを収集し分析を実施した（分析は現在も継続中）。これらの調査の一部は、「Community Radio as Apparatus to Remember Disaster: Case studies of the Great East Japan Earthquake」と題し、マドリードで開催された第62回国際メディアコミュニケーション学会（査読付）にて発表した。また、阪神淡路大震災を対象とした研究も第5回震災研究交流会報告書に掲載された。現在2つの論文が国内外の学術誌にて査読中である。

文化装置としてのコミュニティラジオについては、長期に亘り調査を実施しているが、今年度は成果の一部を、「奄美環境文化祭 唄島ふえすていばるっち。-メディア・イベントと島のアイデンティティ-」と題した論文として『島嶼研究』にて発表した（査読付）。

その他、これまで樽見鉄道や長良川鉄道などローカル鉄道との連携事業や共同研究をもとにした研究論文「共創型デザインの視点からみる地域鉄道の観光振興」が地域活性研究に掲載された（査読付）。

また、昨年より新たに二つの研究テーマに取り組み始めたが、まず「リスク社会におけるコミュニティレジリエンス」の研究の一環として根尾での調査を地域活性学会にて発表した。さらに、「ネット社会における新たな合意形成」のテーマに関しては、全国のメディア調査や奄美大島においてヒアリング調査を実施した。また、このテーマに関して、札幌の事例をもとにした論考を本学紀要にて発表した（卒業生の佐野和哉氏との共著）。

#### 4 学会発表や著書

##### <著書>

金山智子「メディア事業過程モデルによる地域メディア分析--あまみエフエムを事例として」『マス・コミュニケーション研究』Vol. 45 pp. 67-85  
(査読付)

金山智子「奄美環境文化祭 唄島ふえすていばるっち。-メディア・イベントと島のアイデンティティ-」『島嶼研究』Vol. 20(2) pp. 29-47 (査読付)

金山智子「共創型デザインの視点からみる地域鉄道の観光振興」地域活性研究 Vol. 11 pp. 28-34 (査読付)

金山智子「震災の集会的記憶と地域のメディア・イベント-阪神・淡路大震災の事例から-」第5回震災問題研究交流会研究報告書 pp. 28-34

佐野和哉・金山智子「#札幌 discover からみる分断と共感の新しい形」情報科学芸術大学院大学紀要 第11巻 pp. 110-118

金山智子「イアマスの子ども向けワークショップ-その実践と成果」情報科学芸術大学院大学紀要 第11巻 pp. 112-113

## <学会>

Kanayama, Tomoko・Ogawa, Akiko “Community Radio as Apparatus to Remember Disaster: Case studies of the Great East Japan Earthquake”, 第 62 回国際メディアコミュニケーション学会（マドリード）2019（査読付）

鈴木宣也・金山智子「企業に向けたヴィジュアルリテラシーを用いた WS の検討」日本デザイン学会第 66 回春季研究発表大会（査読付）

金山智子「コミュニティ・レジリエンスからみる地域の伝統文化の継承：旧根尾村を事例として」地域活性学会第 11 回研究大会（査読付）

## 5 研究助成

「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」  
（科研基盤 C 代表者）

「重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ」  
（公益財団法人小川科学技術財団 分担者）

## 6 その他、調査や活動

- ・ 放送セミナー「第 4 回新たなラジオスタイル～ラジオの聴き方・接し方」東海総合通信局／東海情報通信懇談会主催 ファシリテーター
- ・ 岐阜ホール【トークイベント】Re-CAMPUS!!-再び通いたくなる学校- ゲストスピーカー
- ・ 2019 年全国広報コンクール審査 審査委員

## 7 その他 社会活動など

一社）社会情報学会 評議員 および 編集委員

特定非営利活動法人地域魅力 監事

名古屋芸術大学 非常勤講師

愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期過程美術専攻 非常勤講師

さかの映像祭実行委員会委員（デフムービー）および映画祭審査委員